

# 第1回伝統文化大会課題一覽

## ◆開催趣旨

伝統文化尊重の教育課程に添う

お正月にちなむものとして全国年賀はがきコンクールと学生書き初め展覧会から成る規模の大きな大会を開催するものです。新しい学習指導要領で伝統文化の尊重が強く求められ、また国語科では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が置かれ、書写はその中に位置づけられました。

新事項は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことという国語の学びの3領域を支える基礎となるもので、書写はその大事な部分を構成しています。また、同事項では日本の伝統的な習俗に根ざし、古典、古文に親しむ学習が求められています。書写も伝統文化をより強く意識した学びとならなくてはいけません。こうした学びを後押しするコンクールとして開催するのが伝統文化大会です。

また総合大会と同じく、一括実施することで毛筆・硬筆のバランスある書写書道の学びを推進し、また子どもらが年中コンクールに追われる状態を避けることも目的としています。

## ◆課題設定の考え方

### ◆年賀はがきコンクール

誰に出すかを明確に

かつて日本では、正月にお年始の風習が盛んでした。しかし、遠方の相手などには手紙で年始を代用することが慣例となったのが年賀状（はがき）です。こうした由来にのっとり、年賀はがきの内容は、新年を寿（ことほ）ぎ、旧年中の交流を謝し、新年の一層の交流を願うものとなります。また、今大会の課題設定では、誰に出すかの相手意識を明確にすることに留意しました。小学生以下はお友だち、中学生以上は目上に出す設定を基本にしています。

（注）高・大・一般の毛筆B課題は、白樂天の七言絶句「春風」から。「春風、先ず開く苑中（えんちゆう）の梅、桜杏桃梨（おうきょうとうり）、次第に開く」

### ◆書き初め展覧会

新年の決意を手書きする

書き初めは、1月2日の仕事始めにちなんだ宮中行事だったといわれています。おめでたい言葉などを選んで書くのがそのスタイルでした。江戸時代に寺子屋教育が盛んになると、字の上達を願う儀式としての側面が強まりました。こうした歴史を踏まえ、当コンクールが目指す現代の書初めの意義は、年頭に新しい年への決意、目標を手書きするところに置きたいと思えます。決意、目標はそれぞれであっていいのですが、自分にとって前向きで、世の中のためにもなる目標を持つことが大事との気持ちを込めた課題設定としました。

# 平成24年度 全国年賀はがきコンクール規定課題

◎作品には出品者の氏名を必ず書いて下さい。  
◎高校・大学・一般の規定課題には、作者名・出品者名を書いて下さい。  
(幼児は名前のみでも良い)

年中以下

年長

みどし

「なまえ」

小1

小2

おめでとう  
ことしもあそぼうね

小1

「名前」

あけましておめでとう  
早くみんなに会いたいな

小2

「名前」

小3

小4

明けてましておめでとう  
今年も、カいっばい元気で  
いこう

小3

「名前」

明けてましておめでとう  
四月のクラスがえ、また  
同じ組だといいいね。

小4

「名前」

小5

小6

明けてまして  
おめでとうございませ  
勉強も運動も、去年以上に  
がんばろうね。

小5

「名前」

新年おめでとう  
ございませ  
今年は中学生になるね。  
これからも親友でいようよ。

小6

「名前」

中学（硬筆）

明けまして  
おめでとうございます  
去年は反省ばかり。今年は  
有言実行でいきます。  
大人への階段を上って  
いきます。

中一三三 氏 名

中学（毛筆）

新年明けまして  
おめでとうございます  
初ごよみ  
今年こそはと意気高し  
目標達成を目指します。

中一三三 氏 名

高・大・一般（硬筆）

恭賀新年  
今年の夏は、旅に出ようと  
思います。いろいろな風土を  
知るのが楽しみです。

平成二十五年元旦  
氏 名

高・大・一般（毛筆）A

謹賀新年  
明るい声や笑顔を増やせる  
一年になるよう、日々過ご  
したいと思います

平成二十五年元旦  
氏 名

高・大・一般（毛筆）B

賀春  
春風先發苑中梅  
櫻杏桃梨次第開

白楽天の詩より  
平成二十五年元旦  
氏 名

### 平成24年度 学生書き初め展覧会規定課題

【硬筆の部】

（年中以下）

てがみ

なまえ

（年長）

ふでとかみ

なまえ

（小学一年）

一ねん

なまえ

きもちよく。

ありがとうを、

（小学二年）

教室で、いつ  
も元気に、手  
をあげよう。

二年 名前

（小学三年）

楽しいことは、  
心の中に全部た  
めて、大切にし  
ます。

三年 名前

（小学四年）

毎朝、白い犬と  
会う通学路だ。  
その角を曲がる  
と、好きな学校  
の門がある。

四年 氏名

(小学五年)

ときどきは立ち止まったり  
ふりかえったりしても、  
上を向いて歩いていく。  
毎日、少しずつでも育っていき  
たい。

五年 氏 名

(小学六年)

目覚めて窓を開け、  
朝の冷気をいっぱい  
吸い込むと、  
また私の新たな一日が  
始まる。

六年 氏 名

(中学)

さけもうなぎも赤海亀も、  
みんな大海原を回遊して  
日本に戻ってくる。  
人間も、気宇壮大な心構えで  
生きてゆきたい。

中二二三 氏 名

(高校・大学)

冷静でまじめなだけでは、  
息苦しい。情熱やユーモアが  
あれば、楽しいだろう。  
強いだけでは疲れてしまう。  
優しさも隠しもっていたい。  
考えるだけでは進まない。  
立つて歩くときが、いつか来る。

署名

【毛筆の部】

(幼児)

み

(小1)

ひと

(小2)

てん

出題

書文協ことは選定会議

手本執筆

一般社団法人書字文化協会代表理事

会長 大平 恵理